

地震から身を守るための10カ条

まず身の安全を

- 1** ケガをしたら火の始末や避難行動に支障が生じる。家具類などの転倒・移動防止対策をしておくことが肝心。



すばやく火の始末

- 2** 普段から習慣づけておくことが大切。火元付近に燃えやすいものは置かない。



戸を開けて出口を確保

- 3** とくにマンションなどの中高層住宅では出口の確保が重要。逃げ口を失ったら避難ができない。



火が出たらすぐ消火

- 4** もし火災が発生しても天井に燃え移る前ならあわてずに初期消火に努める。消化用具の備えは忘れずに。



外へ逃げる時はあわてずに

- 5** あわてず落ち着いた行動を。逃げる時は瓦やガラス、看板などの落下に注意。



狭い路地やブロック塀には近づかない

- 6** 屋外にいたら公園などに避難。落下物やブロック塀の倒壊の危険区域には近寄らないこと。



山崩れ、がけ崩れ、津波に注意

- 7** 東日本大震災では津波が大災害を招いた。居住地の自然環境をよく知って一刻も早く高台へ避難する。



避難は徒歩で

- 8** 避難先までは複数の経路が必要。むやみに避難せず、自主防災組織などの指示でまとまって行動しよう。落ち合う場所を決めておく。



協力し合って応急救護

- 9** 多数の負傷者が出れば病院などでの手当にも限界が。地域ぐるみでの応急救護の体制づくりが大切。



正しい情報を聞く

- 10** 事実の一つ。ラジオや市区町村、自主防災組織などからの正しい情報をつかみ、的確な行動を。

